

平成22年度 美術科年間指導計画及び題材の評価規準 1年

月	週	領域	題材名	目標	学習内容	観点別の主な評価規準				評価方法 評定資料
						美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
4	2 (1)		美術の授業で学ぶこと (オリエンテーションⅠ)	・中学校の美術の学習の目的を理解し、授業に望む心構えをつくる と共に授業の進め方を確認する。	・これまでの美術的な体験を振り返る作品を鑑賞して、素直な意見や感想を発表しあう。 『美しいもの』とは何か？ その「感じ方」など、美術の学習で習得することを確認し、具体的な学習方法を知る。	・前向きに話を聴き、大切なことをノートする ・時間内にワークシートを完成させ、自分の考えを明確に整理する。	・ワークシートの内容が的確で、この時間の学習内容を理解している。		・鑑賞時の自分の考えをしっかりと提示する。	・観察 ・ワークシート
4	3 4 (3)	絵画 鑑賞	表現と鑑賞 (オリエンテーションⅡ)	・作品を鑑賞し、自分なりの感想を持つとともに、作者が伝えたかったことを想像してみる。 ・スケッチから対象をよく観察し、その特徴やイメージを持つことの大切さを知る。	・ミレーの作品を鑑賞し、気づいた点を発表し合う。 ・ミレーの生涯や他の作品について詳しく知る。 ・いろいろな人のスケッチを鑑賞し、個性や表現方法のよさを理解する。 ・対象をよく観察し、感じるイメージを大切にしながら、形態や色、立体感などを考えて描く。	・作品鑑賞を通して、美術的な活動に関心を持ち、意欲的に鑑賞活動に取り組む。 ・スケッチをすることの楽しさを味わおうとする。	・対象の持つよさや特徴から、自分の描こうとするイメージを持つ。	・用具や材料の特性を理解し、その効果を生かした表現をする。	・作品の鑑賞を通して作者の個性を感じ取ったりしながら、作品を分析的に見る楽しさを味わう。 ・自分や友達の仕事のよさを味わう。	・観察 ・作品 ・鑑賞カード
5	2 3 (3)	デザイン	きっちりワークⅠ	用具の扱い方や着色方法の基礎を身につける	・アクリルガッシュの使用方法、筆やパレットなどの基本的な取り扱い方を学ぶ 平面作品における「平塗り」技法を習得する。	・道具を大切にすることを理解し、丁寧に扱うことができる。		・慎重に制作を進めている。	・自分の技能のレベルを客観的に知る努力をしている。	・観察 ・作品
6	4 1 2 3 (6)	デザイン	きっちりワークⅡ (人工物による平面構成) 色の広がり 色の魅力	・色の性質や分類について基礎的な知識を学習し、配色などの応用力をつける ・色の組み合わせによる視覚効果を考える。 ・構成美の要素を確認する。	・色が、私たちの感覚や感情に及ぼす影響を体験的に理解する。 ・私たちの文化や生活に息づく色彩に着目し、その特徴について考える。 ・色の性質や分類について基礎的な知識を学習し、配色などの応用力をつける。 ・構成美の要素を確認し、美しいと思う構成を考え、配色計画を立てて、アクリルガッシュで丁寧に彩色する。	・美しい構成はどのようなものかを自分なりに考え制作にあたっている。 ・身の回りの色に興味を持ち、色の性質や感情の関係を理解しようとする。	・構成美の要素を意識し、自分独自の構成をしている。 ・身の回りの色に興味を持ち、色の性質や感情の関係を理解しようとする。	・用具を工夫しながら、丁寧に作業を進めている。 ・時間を意識して準備や作業、片付けを行っている。	・自分や友達の仕事のよさを味わう。 ・色が私たちの感覚や感情に及ぼす影響を体験的に味わい、文化や生活に息づく色の魅力を味わう。	・観察 ・作品
6 7 9	4 1 2 9 1 2 (8)	デザイン	さまざまな表現技法を使おう 絵文字	・絵の具やクレヨンなどの描画材料のさまざまな使い方を学び表現方法の幅をひろげる。 ・基本的なレタリングを学び、絵文字を自分なり感じ方を大切にしながら、形や色彩の特徴をもとに表現する。 ・計画的な制作を進めるための態度や心の姿勢を高める。	・オートマチックパターンをとおして、色彩や形を心で感じる力をトレーニングする。 ・カラーシュの技法を学び、できあがったものから感じる「感情的なイメージ」を整理して理解しベースをつくる。 ・絵文字のアイデアを考えることにより、練り上げと作業計画の立案方法を体得して、計画的に見通しをもって制作を進めるための態度や姿勢を身につける。 ・さまざまな描画材料があることを知り、特性を理解する。 ・互いの作品を鑑賞し合う。	・技法に興味をもって積極的に経験しようとしている。 ・準備をしっかりと前向きに作業を進めている。	・偶然に生まれた「画面」を味わい。 ・表現したい絵文字とあっているか組み合わせを考える。	・用具や材料の特性を理解し、その効果を生かした表現をする。	・自分の制作についての感想や内容をわかりやすく書く ・自分や友達の仕事のよさを味わう。	・観察 ・作品 ・鑑賞カード
9 10 11	3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 (12)	絵画	Ⅱ 視点を変えて 「虫の目から見える世界」	・人と虫の目の仕組みの違い、視点の違いなどを楽しく想像しながら風景をとらえる。 ・イメージをもとに自分独自の表現に取り組んでいる。	・大きさ、居場所、見え方の違いなど想定し空間や遠近を表す工夫をしを表現する。 ・様々な視点や考え方をもとにアイデアをたくさんスケッチする。 ・感じるイメージを大切にしながら、形態や色、立体感などを考えて描く。 ・互いの作品を鑑賞し合う。これまで学んできた「絵画(絵)」のとらえ方の幅を広げる	・スケッチをすることの楽しさを味わおうとする。 表現の面白さに気づき、独自の表現に取り組もうとしている。 ・美術作品や友達の仕事の鑑賞し、表現の面白さを味わおうとしている。	・対象の持つよさや特徴から、自分の描こうとするイメージを持つ。新たに自分のイメージを広げ、主題を決めることができる。 ・イメージから思い思いの発想で、表現の構想を練ることができる。	・計画的に制作しながら、自分のイメージを個性的に表現している。	・想像することに関心を持ちながら、作者の意図や表現の工夫、自由な発想の中に個性の違いを感じ取り、そのよさを味わっている。	・観察 ・アイデアスケッチ ・鑑賞カード ・作品
11 12	4 1 2 3 4 1 2 3 4	工芸	木彫皿	・商業美術についての理解を深める。 ・機能を考えた意匠(デザイン)を考え表現する。 伝統工芸品に対するよさを理解する。	・伝統工芸についての理解を深め、機能とデザインを考えて制作する。 ・彫刻刀の使い方について確認し、基本的な彫り方を学習する。 ・ヤスリがけ、目止め、ステイン仕上げをする。	・伝統的な意匠に興味を持ち、機能を考えながら作業を進めている。 ・伝統工芸についての理解を深め、よさを味わおうとしている。	・平面構成の学習に伝統的な文様などを取り入れるなど工夫している。	・特性を理解し、その効果を生かした表現をする。 ・レリーフ(浮き彫り)を意識して表現している。	・自分や友達の仕事のよさを味わう。 ・技のすばらしさを感じ、伝統工芸についての理解を深める。	・観察 ・作品
3	1 2	鑑賞	身の回りの日用品のデザインについて考えよう	普段何気なく使っている日用品に目を向け、デザインのよさを味わい見方を広げる。	・気に入っている日用品を持ち寄り、デザインのよさやなどについて鑑賞し合い、ものを見方を広げる。	生活の中のデザインに親しみ、意欲的によさや美しさを味わい、作品に対する機能や美についての理解や見方を広げていこうとする。			生活の中で、美術が様々な用いられていることや美と機能性とのかわりに気づき、その働きについて理解する。	・鑑賞カード ・観察

\*10月まで隔週で2時間実施

平成22年度 美術科年間指導計画及び題材の評価規準 2年

月	週	領域	題材名	目標	学習内容	観点別の主な評価規準				評価方法 評価資料	
						美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力		
4	2 3 4	絵画	自画像 (素描から自己表現の色彩へ)	・骨格である頭蓋を通して顔面構造を理解し考えて制作する。	・正中線や眼窩、鼻腔など美術解剖学を踏まえた顔面比率を考慮する。	・自分の顔をとおして骨格がどのようになっているか表層面から人体構造に興味を抱く。	・顔面には様々な形状がある。 ・鼻骨の高さを陰影で表現を試み、眼球の湿度にコントラストのある光(スポット)に描写力を展開する	・顔面に対して眼球の位置、口裂や下顎骨の関係を理解し、それぞれの部位の比率が正確に表現されている。	・実際の人物表現とアニメに見られる顔面のデフォルメとの差異がわかる。 ・レオナルド・ダ・ビンチの解剖素描を通して美術と科学の関わりに鑑賞力を拡大させる ・古今東西の自画像を鑑賞し、作家の意図や表現の違いについて理解を深める。	・観察 ・作品	
5	2 3 4			・美術が科学的視野を持つ教科であることを学ぶ	・顔の部位を機能に基づきパズルのようにはめこむことで理解を深める。	・自分のことについてしっかりと向き合い今の気持ちを素直に出そうとする。	・自分らしい表現の構想をする。 ・自分の表現を追求しようとしている				
6	4 1			・実際に指先を使用して造形物へのチャレンジを試みる	・頭蓋の耳鼻水平を意識し人体の構造にも興味を持たせる。	・スケッチをすることへの興味を抱き、観察の必要性を感じる。					
6	2 3 4	立体造形	紙による造形 飛び出すカード	・紙の特質・種類を考え、工業製品に至っては日常生活を豊かにする要因でもあることを学ぶ	・紙の素材や可能性について学び、半立体の飛び出す絵本やカードまたは立体的な照明器具カバーなど自己創作へ自由な展開を試みる。	・生活のデザイン的発想を意識する。 ・紙の種類によって楽しい効果が生じることに関心を持つ。	・折る、曲げる、紙の切れ込みや凹凸をつけて造形の美しさを求めている。 ・見開きにしたとき半立体として現れる形態を追求する	・紙の特性を活かしてイメージを具現化している。 ・紙の性質を考慮してシャープな折りや面を意識した丁寧な仕上げを考える。	・イサムノグチの照明器具など紙製品が日常のデザインに貢献していることにも鑑賞の領域を広げる。	・観察 ・作品	
7	1 2 3			・実際に指先を使用して造形物へのチャレンジを試みる							
9	1 2 3 4	デザイン	レタリング 自分の名前のサインから 自分ブランドのロゴマークへ	・文字の美しさを、日本の書と中世ヨーロッパのカリグラフィについて考え、比較鑑賞の後、エディトリアルデザインへの発展を学ぶ。	・既成の文字として定着した活字の成立と東西を通して筆跡の美にも興味を持たせる。英習字からつけペンによるカリグラフィーを通じて鑑賞力と英語に対して洞察力を持たせる。	・英語の筆記体を大文字。小文字を理解する。 ・書道にも通じる明朝体や隷書など公文書に使用されている文字への理解	・変化した文字あるいは校章、家紋、ブランドのロゴなど身近にある多様なものを応用して、独自のマークを発想できる。	・着彩用具を工夫して丁寧に制作を行なう。	・日本の書と中世の写本やウィリアムモリスのケルムスコット・プレスに見られる文字の美しさを味わう。	・観察 ・作品 ・ワークシート	
10	2 3 4										
11	1 2										
11	3 4	工芸	レザークラフト(コースター)	・商業美術についての理解を深める。 ・機能を考えた意匠(デザイン)を考え表現する。 ・工芸品に対するよさを理解する。	・工芸についての理解を深め、機能とデザインを考えて制作する。 ・革の種類、断ち方、刻印棒、スーベルカッターの使い方について確認し、基本的な工程を学習する。 ・唐草模様の描き方、かがりの方法、彩色等を学習し制作する。	・意匠に興味を持ち、機能を考えながら作業を進めている。 ・工芸についての理解を深め、よさを味わおうとしている。	・平面構成の学習に伝統的な文様などを取り入れるなど工夫している。	・刻印棒などの用具や材料の特性を理解し、その効果を生かした表現をする。	・自分や友達の作品のよさを味わう。 ・技のすばらしさを感じ、伝統工芸についての理解を深める。	・観察 ・作品	
12	1 2 3 4										
1	2 1 2										
2	3 4		日本美術への理解 「日本美術史」	・修学旅行に関連し日本美術への理解を深める ・日本文化が千年以上を経てなお世界的遺産となっている源泉を探る。	・法隆寺や東大寺など修学旅行で訪れる寺院が所有する国宝や重要文化財について調べ、簡単なスケッチと着色をまじえたオリジナルガイドブックをつくる。(経文のように折りたたみ式)	・国宝と重要文化財、御物など国華と称される日本の名品について興味を持つ。	・折りたたみ式のガイドに日本的文様や源氏物語に登場する配色を組みあわせる。	・明治維新後の廃仏毀釈によって海外に流出した日本の文化財について考える。	・友達の作品の異なる視点などにも気づき、自己作品であるガイドブックに修学旅行先で実地調査する姿勢をとらせ、鑑賞の深さを学ぶ。	・観察 ・作品 ・ワークシート	
3	1 2			絵画	日本美術への理解 「浮世絵を描く」	・筆から発展した日本美術を実践する。 ・「書画一致」を経験し書道の応用文字の位置や変化を考える。 ・江戸時代の庶民文化の浮世絵はある種のメディアであったことを認識させる	・浮世絵になぞらえた自分を想定し半紙に墨と筆を使用して(肉筆で)描き、黄を入れる。 ・サインの位置や刷り元の関係などの歴史的文献として作品を読み取る。	・書道の筆の動きを描画に生かすことで平面的な描写を味わい「書画一致」に興味をもつ。	・指先の表現や着物の文様にも着目し自分流にアレンジする。	・書道と同様に二度書きをせず、余白のあり方を考えて創作する。	・浮世絵が歌舞伎などの日本の古典芸能に重要な役割を果たし、印象派にも多大な影響を与えた。その歴史の意味を鑑賞する。

平成22(24)年度～ 美術科年間指導計画及び題材の評価規準 3年

月	週	領域	題材名	目標	学習内容	観点別の主な評価規準				評価方法 評価資料
						美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
4	2		オリエンテーション	・最後の年の心構えを確認する	・1年間の学習計画を確認して、制作の見通しをもつ ・表現テーマの重要性を再確認する	美術への関心・意欲・態度 美術の学習の目的をきちんと理解する。表現意図、表現視座、探求心、達成意識、試行意欲等 ・今後の作品づくりの意義を改めて考える。				・観察
4	3	鑑賞	日本の美術	・それぞれの文化遺産に対する想いを大切にすることにより広く 歴史的・国際的な視野でものを見る態度を養う。	西洋と東洋の文化を比較して共通点や相違点に着目し、日本文化の源流を探る	・美術文化や文化遺産などに対する関心を高め、それらを尊重し国際理解を深めようとする。			・様々な美術作品、美術文化や文化遺産などを鑑賞し、その特質や相違と共通性に気づき、理解を深める。	・鑑賞カード
5 6 7	4 2 3 4 1 2 3 4 1	デザイン	編集者の仕事	・エディトリアル・デザインの仕事を理解し、よりよく見せ、伝えるための方法を修学旅行記の制作によって学ぶ	・画面のレイアウト方法を工夫して「修学旅行」のレポートを制作する際の準備学習を行う ・旅行の事前にレイアウト方法の学習を行う ・素材集めの方法を知り、構想発展の手だてを探る	・親しみのある表現方法に興味をもち、自分の思いを楽しく表現しようとする。 ・制作に関しての準備を計画的に行っている。	・焦点をしぼった「見せ方」を考えることができる。 ・素材の取捨選択がテーマにそったものとなっている	・作品完成まで手順を考え、制作を進めている。 ・独自のアイデアを大切に、様式をしっかりととらえて制作をしている。	・感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方でお互いの努力を認め合い、その上での確かな批評ができる。	・鑑賞カード ・観察
7	2 3	鑑賞	「展示から作品のよさを感じ取る(日本美術を中心に)」～県立美術館教材【移動アートボックス】をつかって～	作品から受けるイメージを大切に、展示から読み取れる諸外国と日本の美術の中に表れている形や色彩の特徴などに気づき、そのよさを感じ取る。	・作品に興味を持って鑑賞し、そこから感じ取った魅力や造形美、作品データなどをもとに展示計画を立てる。 ・作品から受けるイメージを大切に、展示から読み取れる諸外国と日本の美術の中に表れている形の特徴、色彩の特徴などに気づき、そのよさを感じ取る。	作品の意図やその良さを感じ取ろうと意欲的に鑑賞しようとしている。		作品を鑑賞し、その意図や表現の工夫、よさを感じ取り味わったりして見方や感じ方を深める。	・鑑賞カード	
9 10 11 12	1 2 3 4 1 2 3 4 1	絵画・立体	附中現代徒然草～形や色でつれづれなるままに～	・自分が普段感じ考えていることからテーマを決め、生徒自ら感じる和(日本的)をもとに、構想を練り、表現に適する素材や材料を選択し創意工夫して表現する。 ・自己を見つめ、内面にある思いを色や形に込めて表現する ・自分なりの見方や感じ方を大切にしながら、作品を鑑賞し批評し合う。	・自分たちの生活の中で日頃感じ取ったこと考えたこと「日本的」なものと考えあわせて制作する。 ・これまでの学習のかかわり、つながりを意識し形や色彩、材料などを考え制作する。 ・互いの作品を鑑賞し合う。	・自ら進んで創造的な発想・構想をし、自分らしい表現を創造しようとして試行錯誤を通して工夫を重ね、表現をしていこうとする。 ・いろいろな視点や考え方で意欲的にアイデアスケッチをする。 ・日本的なものを感じ取り、表現意図とのかかわりを理解して美術作品や友達の作品のよさを感じ取ろうとしている。	・独創的・総合的なものの見方や考え方を生かして豊かな発想・構想をする。 ・対象の持つよさや特徴から、材料を吟味しその特性を理解して自分の表現するイメージを持つ。	・自分の経験や知識、想像力などを生かして試行錯誤をしながら、楽しく独創的な表現を工夫する。 ・用具や材料の特性を理解し、その効果を生かした表現をする。	・作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し見方を深める。 ・自分や友達の作品のよさを味わう。 ・友達と自分とのアイデアや考え方の違いを認め合い、それぞれのよさを感じ取り味わったり批評して見方や感じ方を深める。	・観察 ・鑑賞カード ・作品 ・アイデアスケッチ ・鑑賞コメント
12 1 2	2 3 4 1 2 3	工芸	ペーパーウェイトをつくらう	・用途を考え、工夫して表す。 ・金属工芸について用具や基本について理解し、表現方法を工夫して表す。金属の特性を確認し、卒業記念品として制作する。	・用途を考え、適した形を考え油土で工夫して表す。石膏で雌型をつくり、合金を流し込む。 ・金属工芸について用具や基本について理解し、表現方法を工夫する。	生活で使えるものを使う場所や用途から考え、意欲的に取り組もうとする。	用途などから大きさや形状などを工夫して表す。	材料の特性を効果的に利用して制作している。	お互いの作品のよさを味わう。	・スケッチ ・観察 ・鑑賞カード ・作品
3	4 1	鑑賞	今までの美術、これからの美術	・今までの美術、現在の美術のあり方を学び、様々な表現の方法を受けとめ、今後の美術のあり方について探る。	「美しさ」の素になるものが何であるのかを探り、自分なりの美意識を追求するための学習を行う。	・美術文化に対する関心を高め、それらを尊重し今後の美術のあり方について探り、深めようとする。	・美学に迫るような研究を展開することができる。	・様々な美術作品、美術文化などを鑑賞し、その特質や相違と共通性に気づき、今後の美術のあり方について考えを深める。	・ワークシート ・観察	